讀賣新聞

2005年(平成17年)8月17日 水曜日

プール天井崩落

「水の中に逃げた」

先月オープンしたばかり

先月オープンしたばかりの屋内プールの天井だけがなぜ崩落したのか――。家族連れなど265人でにぎわい、26人が負傷した仙台市泉区松森のスポーツ施設「スポパーク松森」。現場を訪れた専門家は「もっと地震に配慮して設計していれば、落下は防げたのではないか」と指摘。宮城県警は、設計や施工に問題があった可能性もあるとして、17日に実況見分を実施する。

地震によって崩れ落ちたプールの天井（16日午後1時過ぎ、仙台市泉区の「スポパーク松森」で）

7月1日にオープンした同施設は、仙台市が民間のノウハウや資金を活用するPFI方式で発注し、地元ゼネコンなど11社からなる「松森PFI」（同市青葉区）が設計、建設した。中野英武社長は「けがをされた方におわび申し上げたい。建物は建築基準法を満たしており、専門的な調査をしないと原因は分からない」と話した。

プールの天井は、骨組みや配管などを天井からつったパネルで隠す「つり天井」工法が採用されている。国土交通省建築指導課によると、体育館などの大規模施設で通常用いられている工法だが、周辺の施設では天井落下は起きていない。

16日に現場を調査した日本建築学会東北支部災害調査連絡会委員長の源栄正人・東北大教授（地震工学）は「地震の横波によって大きく縦に揺れる『面外振動』が発生し、上下の揺れが設計上想定していた大きさを超えたため、金具がはずれるなどしてつっている天井が落下した可能性がある」と指摘。面外振動は、柱と柱の間隔が30㍍以上あるような大空間の建物で発生しやすいという。

同じく現場を視察した田中礼治・東北工大教授（耐震工学）も、落下原因について、①建物本体に比べて天井の方が大きく揺れた②建物が地震で多少ねじれて変形、つってある天井がその変形に追従できず、外壁の方から内側に向かってはずれて落下した可能性がある――と語った。

地震発生時、1歳の娘とプールサイドにいて頭や肩などにけがをした同市内の男性会社員（33）は「揺れが起きてから20～30秒してパネルが落ちてきた。危ないと思い、子どもを抱えてプールに飛び込んだ」と恐怖の瞬間を振り返った。

ビックカメラ
省エネ製品をおすすめします
biccamera.com

家屋被害610棟、2万戸停電

店舗の天井の一部が壊れたり、商品などが崩れたりして多くのけが人が出た。

岩手県北上市のパチンコ店では天井の金属製カバーが落下し、31歳の男性客ら3人が頭を切るなどした。宮城県気仙沼市のパチンコ店でもエアコンのフィルターが落ち、42歳の男性にぶつかった。同県多賀城市の量販店では、落下した商品が30代の男女2人に当たった。店舗や住宅のガラスも割れ、破片を踏むなどして3人がけがをした。

家屋の被害は、全壊と一部破損を合わせて610棟に上った。埼玉県加須市では、全壊した住宅に80歳の女性が閉じこめられたが、約50分後に救出された。

宮城県や福島県で約2万戸が一時停電したほか、秋田市で水道管に亀裂が入り一部で断水した。

東北自動車道は宮城県と岩手県の間が1時間50分にわたって通行止めとなり、山形自動車道も約2時間にわたって全面通行止めとなった。在来線は、東北線の一部区間が7時間半にわたって不通になるなど東北地方を中心に運休が相次いだ。

公立校や文化財 4県で93件被害

今回の地震で、宮城、岩手、福島、茨城の4県の公立学校施設や文化財などに計93件の被害が出たことが、16日午後4時現在の文部科学省のまとめで分かった。

被害が最も大きかった宮城県では、幼稚園から大学までの公立学校施設で天井や壁に亀裂が入ったり、給水管が破損したりするなどの被害が計57件に上った。

また、国指定の重要文化財「旧登米高等尋常小学校校舎」（宮城県登米市）の白壁に亀裂が入るなど、文化財も7件が被害を受けた。

このほか、公民館などの社会教育施設の被害も、宮城、岩手、福島の3県で計18件に上った。